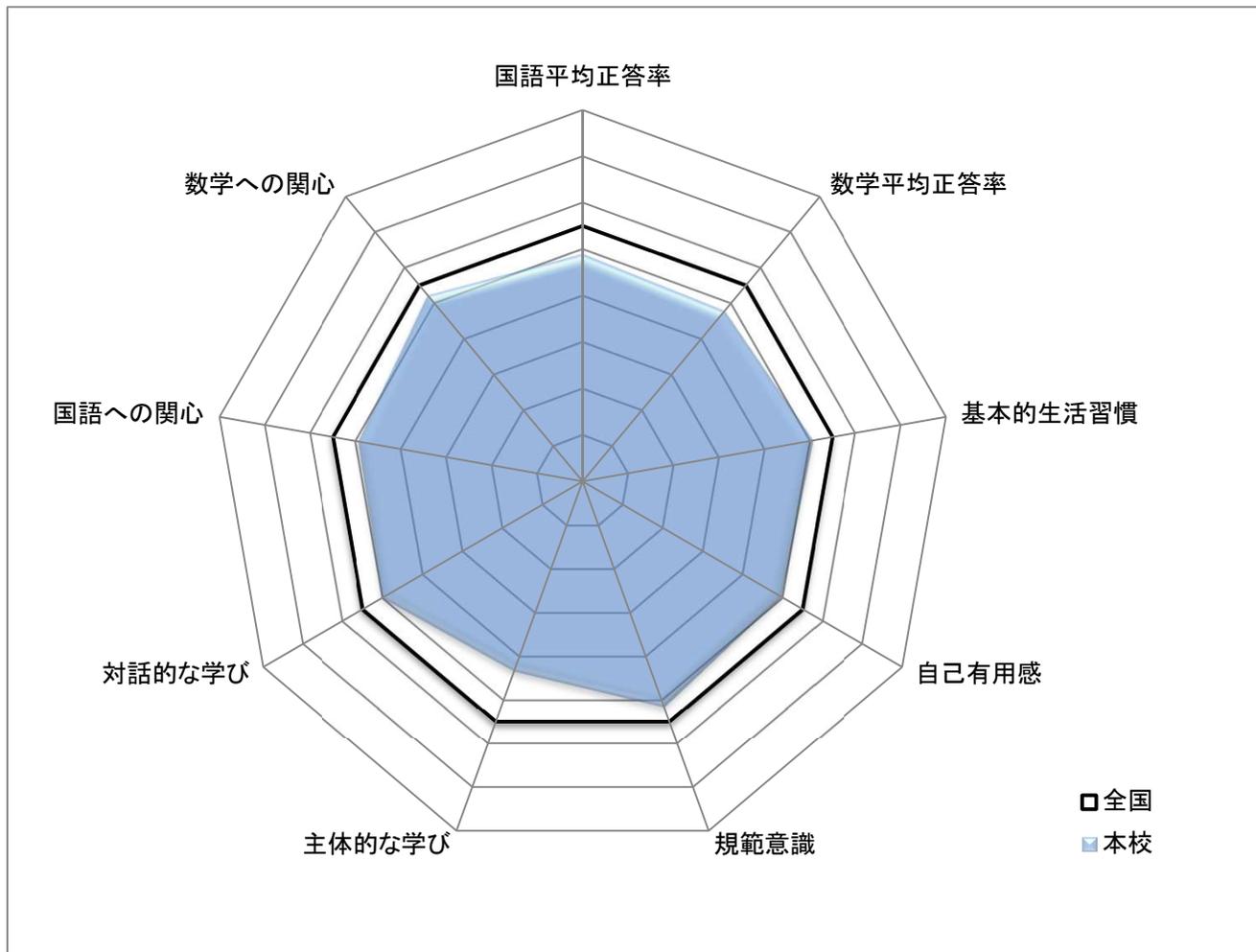


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

平均正答率 (全国、東京都)
 国語…国▲7.1 都▲10.0
 数学…国▲7.5 都▲12.0
 各教科の平均正答率は、国および都の平均を下回っている。正答数を「四分位」を用いてみた場合、全国平均よりも顕著にC層ならびにD層が多い実態である。
 各教科における興味・関心に関しても平均を下回っており、なかでも主体的な学びに関しては、大きく下回っていることが課題である。

《授業改善のポイント》

以下の取組を図り、生徒の学力の向上を図っていく。

- ①各教科においては、基礎・基本的な内容の習得を確実にするよう、一人一人の実態に合わせた、学習への取り組みを展開していく。
- ②生徒が自らの課題を適切に見出して、学習に取り組むことができるように情報端末などを活用して、その取組みを発表できる機会を設ける。
- ③グループでの学習の機会を作り、他者と協力して課題の解決ができるようにする。
- ④演習問題や発展的な問題や課題解決に向けた、学習内容を設定し、自学自習の日常化につなげる。

《チャートの特徴》

- 平均正答率をはじめ各項目において、全国平均・都平均・区平均を下回っている。
- 数学の関心については、全国平均に近い水準となっている。
- 「生活・学習習慣」においては、平均を下回っており、特に「主体的な学び」に関しては、大きく下回っていることは課題と受け止めている。
- 「主体的な学び」よりも「対話的な学び」のポイントがより高いことから、生徒同士の関わりの中での取組を向上させることが、重要である。
- 自己有用感に関しては、全国平均を下回っており、自己肯定感を高める取り組みが求められる。

《家庭・地域への働きかけ》

- 基礎学力の向上のために家庭学習（自学自習ノート等）への取組を呼び掛けていく。
- 生活においては、情報端末を適切に活用し、学びに生かせるよう家庭でのルールの呼びかけを行う。
- 生活習慣では、基礎的な習慣が身につくように生徒の実態に合わせて呼びかけを行う。